令和５年度学校評価

愛知県立熱田高等学校全日制課程

本年度の重点目標	１　新学習指導要領実施２年目を迎え、３観点別評価と授業改善を推進する。 ２　生徒の可能性を引き出し、生徒自らが将来を見据えて進路目標を設定するように導く。 ３　日常の教育活動を通して規範意識を高め、命と人権を重んじる心を育成する。 ４　ＨＲ活動や特別活動・学校行事等を通して、生徒の活力を引き出し豊かな心を育成する。 ５　安全で安心できる学習環境の整備に努める。 ６　会議の精選など業務改善を図り、効率的な学校運営に努める。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
学校総務 （総務部）	・式典での元気よい校歌斉唱	・１年生音楽クラスの生徒は授業中に校歌練習を行う。 ・昼の校内放送で校歌のCDを流す。 ・式典中に生徒手帳を見て歌うように促す。	・強制的に校歌を歌わせるのではなく、十分時間をかけて校歌を歌うような雰囲気を醸成する。
	・ＰＴＡ関連行事の精選	・ＰＴＡ委員会や行事の開催回数、開催時期の検討を行う。	・会長、副会長、各学年長、各専門委員長との話し合いを行う。
	・学習環境の整備	・生徒の机や椅子の更新、カーテンの洗濯を継続して行う。	・机、椅子に不具合があれば、速やかに交換する。
学習指導 （教務部）	・主体的・対話的で深い学びを実現するために学習指導方法及び評価方法の工夫改善	・主体的・対話的で深い学びを実現するために、学習指導方法及び評価方法の工夫改善に努め、生徒の学力の伸長を図る。 ・ＩＣＴを積極的に活用し、深い学びを実現する。	・生徒の学力を把握し、３年間を見通した教科指導計画を立てる。 ・生徒の主体的・対話的な学びにつながるよう授業改善に努め、より効果的に学力定着を図る。 ・ＩＣＴを積極的に活用し、深い学びを実現できるように授業改善を行う。 ・生徒自らが目標を定め、学習計画を立て、評価できるように導く。
生徒指導 （生徒指導部）	・基本的生活習慣の確立	・毎朝の立番と登校指導を通して、声を出して挨拶する習慣を身に付けさせる。特に、８時30分を越えて正門を通る生徒に積極的に声を掛ける。 ・遅刻入室カードを職員室に常置し、多くの教職員で指導し、規則正しい生活習慣を身に付け、主体的に充実した学校生活を送ることができるよう啓発する。 ・毎朝の立番と登校指導を通して、声を出して挨拶する習慣を身に付けさせる。	・立番を毎日実施し、生徒一人一人と挨拶を交わし、積極的なコミュニケーションを図る。 ・８時30分以降に校門を通る生徒に対して、早めの登校を促す。 ・月に３回遅刻をした生徒に対して、担任と連携を取りながら、８時15分登校を３日連続で実施させ、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
	・いじめの未然防止と早期発見	・いじめ防止基本方針に基づいて、学校生活実態調査や面談を実施するなど、兆候を見逃さず、安全安心な学校生活を送れるようにする。	・担任と連携して、問題行動の早期発見を図り、兆候があった場合は組織的な対応を図る。
	・身だしなみ指導	・身だしなみ指導及び身だしなみ重点指導を通して、正しい着こなしを促しながら、学校生活と私生活のけじめをつけさせる。 ・式典や集会などで身だしなみ指導を実施することを通して、ＴＰＯを踏まえさせ、よりよい集団の雰囲気をつくる。	・学年や他分掌と協力しながら組織的な身だしなみ指導を実施する。 ・頭髪について染髪等を定期的に確認し、保護者と連携をとり生徒面談を繰り返し改善させる。 ・身だしなみ指導一覧表を活用して、状況を把握する。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒指導 （生徒指導部）	・交通安全指導	・毎朝の立番と登校指導を通して交通安全を啓発する。 ・熱田警察署及び地域住民と連携して交通安全講話を実施し、交通ルールを確認させ交通安全意識を高める。 ・「自転車無事故無違反ラリー」へ参加することを通して交通安全意識を高める。	・学校近辺のハザードマップを作成し、注意喚起をする。 ・講話で学校付近の危険箇所を伝える。 ・熱田警察署管轄の「自転車安心・安全モデル校」として交通事故の未然防止を図る。 ・事故発生時の対応を周知する。
	・盗難防止	・貴重品の自己管理管理を徹底させ、安全安心な環境をつくる。	・教室を離れる際の貴重品管理について啓発する。 ・規範意識を高める。
図書文化活動 （図書文化部）	・生徒にとって利用しやすい図書館運営を目指すとともに円滑に図書館の業務が行なわれるよう努力する。	・学校司書が不在の図書館だが、教員と図書文化委員で協力して、図書館開館時間にきちんと開館できるように努める。 ・生徒が親しみをもって図書館を利用することができるよう、館内ディスプレイや本の配置を工夫する。 ・生徒の図書館への関心を高め、読書への意欲を高めるため、『図書館だより』や『図書館報』等を通しての広報活動、「図書館まつり」等の図書館行事を行う。また、各教科との連携を図る。 ・利用状況の分析や生徒からの聞き取りを通し、生徒の読書傾向を把握し、より多くの生徒の利用を促せるような蔵書を充実させる。 ・本の紹介、多読指導等、生徒への具体的な読書指導に努める。	・出入口に手指用消毒を設置、常時換気をし、密を避けて利用出来るようにする。 ・生徒が落ち着いて読書や学習ができる環境を保てるように留意する。 ・本の検索、貸出業務等がスムーズにできるよう、コンピュータのメンテナンス、及び、図書館スタッフのスキルアップに努める。 ・館内ディスプレイに関しては、生徒の知的好奇心を刺激するものや、情操教育に資するものになるよう留意する。 ・図書の購入に関しては、生徒の希望を尊重しつつも、教育上好ましい図書を選定できるよう留意する。また、新着図書の受け入れ業務をできるだけ速やかに進める。
学校保健 （保健部）	・施設・設備の安全確保と整備	・定期的に施設・設備の安全点検を行う。 ・必要に応じて施設・設備の修理・改善を行う。	・施設・設備の現状を把握する。
	・校内美化の推進	・ごみの分別、清掃活動を通して環境にやさしい生活を考えさせる。 ・より丁寧な清掃を行う。 ・通常清掃および年４回の大掃除を行う。 ・除草・屋外清掃を随時行う。	・美化委員会を中心とした美化活動の推進を図り、教室や廊下の環境を整える。 ・拭き掃除をしっかり行う。
	・保健指導の充実	・定期健康診断の結果から、自己の健康状態を把握させる。 ・保健委員会活動として、広報活動と学校祭「保健ブース」の充実を図る。 ・現職研修において、心身の健康についての知識と技術の定着を図る。	・健診の結果を生徒へフィードバックし健康の保持増進を図る。 ・学校保健計画及び保健室経営計画に沿って実施する。
	・教育相談体制の充実	・スクールカウンセラー来校時に相談委員会を開催する。 ・「相談室だより」を発行する。	・生徒情報の共有化を図り，最善の対応を求めて、議論、検討をする。 ・スクールカウンセラーと連携して相談体制を充実させ，生徒、保護者が相談しやすい環境を作る。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導 （進路指導部）	・生徒の実態と進路希望を踏まえた、３年間を見通した進路学習の充実 ・在り方生き方の教育の充実と進路意識啓発の進路実現への取組みの充実	・実力テスト、模試、「スタディーサポート」などを連動させて進路指導の資料とし、生徒が自ら学力到達度の目標を定めて主体的に学力向上を目指していけるよう進路指導体制を確立していく。 ・キャリア教育を充実させ、インターンシップや高大連携などを通して在り方生き方の教育を推進する。 ・大学入試改革に伴う変更点の情報収集と生徒，保護者，教員への情報の発信を積極的に行う。 ・第１学年から大学入試関係の講演会などを実施し、生徒の進路意識の高揚を図る。	・スタディーサポートの生活習慣アンケートなどを活用して、日常の学習習慣の確立を図る。また、実力テストや模擬試験の分析結果を活用し、生徒の学習状況を進路指導部と学年の間で共有する。 ・総合的な探究の時間の中でインターンシップを行い，生徒の職業観を高める。また、総合探究の授業の中に高大連携を取り入れ、より広い視野で自分の将来について考えるきっかけとする。 ・生徒に最後まで学力向上の意欲を持続させることのできる推薦入試の在り方を検討・実行する。 ・大学説明会や研究会などに参加して情報収集するとともに，学年集会や進路説明会，進路研究会などで情報を発信する。 ・国公立大学進学希望者に対する、進路実現への取組み意識の高揚をはかる。
特別活動 （特別活動推進部）	・生徒会活動や学校行事を通し、生徒の自主的自律的な態度及び豊かな心を育成し、学校の活性化を図る。	・ホームルームと各委員会、議会、生徒会執行部が有機的な連携を図り、自主的自律的な活動が行われるよう指導する。	・生徒会行事との関わりにおいて各ホームルームとの連携をより確かなものにするために、生徒議会だけでなく学年会とも連絡調整を行うようにする。 ・執行部の生徒や各委員会委員長と昼放課や授業後に話し合う場を設け、学校行事などを通して生徒の自主的自律的な活動が行われるよう指導する。
渉外 中高大連携 （企画部）	・連携プログラムの充実 ・学校生活の校外への積極的な発信	・中学校や大学などの校外との渉外に努め、具体的な方法を企画し、各分掌・学年と協力のうえ、総合的な学習の時間及び長期休暇中に連携プログラムを実施する。 ・部活動紹介をはじめ、学校行事ごとにHPを更新し、情報開示をする。	・連携プログラムの内容を取りまとめ、分掌・学年が動きやすい状況を作る。 ・他分掌との連携を密にし、学校生活の様子を多方面から発信する。 ・提携する大学のみならず、様々な企業や他校との連携を生徒主体で図ることができる手立てを探る。
（第１学年）	・規範意識と社会性の伸長 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着 ・キャリア教育、進路指導による目的意識の育成	・8:30登校や提出物の徹底、そして身だしなみや日常の挨拶を、日々の声掛けを通して指導する。 ・英数国の教科担任から週課題・小テストを課し、教科担任、クラス担任、学年が連携することで、生徒の状況を把握し、取組の改善を促す。 ・ＬＴ、総合探究、学年集会、面談、模試などを通して進路に対する意識付けを図り、目的を持って高校生活を送れるようにする。	・日常の生活指導を大切にし、学年で情報を共有しながら、粘り強く指導することを心がける。 ・学校の授業や家庭学習を大切にする高い意識付けが行えるように心がける。 ・３年計画で進路計画を考え、高い意識を継続できるようにする。 ・インターンシップや大学見学を通して将来を考えるきっかけを見つけさせる。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
（第２学年）	・規範意識と社会性の伸張 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着 ・キャリア教育、進路指導による目的意識の育成 ・自主的・自律的な態度の育成	・正しい制服着用や挨拶を意識するよう日々の学校生活の中で指導する。 ・週課題を通し学習習慣の定着を図り、定期テスト前の学習計画表を利用し計画的に学習する姿勢を身につけさせる。 ・LT、総合探究、学年集会などを通して進路に対する意識付けを図り、目的を持って高校生活を送れるようにする。 ・学校行事において、生徒が自主的・自律的に活動できるよう助言する。	・日常の生活指導を大切にし、粘り強く指導することを心がける。 ・学校の授業を大切にし、計画的に学習できる姿勢が身につく指導を心がける。 ・自身の進路に目が向くよう意識付けが行えるようにする。 ・学校行事を通し、仲間との協力など集団生活のあり方を考えさせる。
（第３学年）	・進路指導部と連携し、生徒が進路実現できるように指導する。	・学校生活全般を通して、進路意識を高める。 ・進路指導部、担任団が情報を共有し進路指導を進める。 ・進路指導部と連携して、生徒・保護者に進路情報を提供し、系統的指導を継続する。 ・学習環境の整備を行う。	・担任団が協力し合って進路指導を行う。 ・生徒が第１希望の進路目標を達成できるよう指導（学習面、生活面）する。 ・より多くの情報を得るために、担任団の連絡を密にする。 ・年間を通して、適宜情報を提供する。 ・生徒の学習の状況を把握し、適切な助言をする。
学校運営 （教頭）	・長時間労働による健康障害の防止	・勤務時間を適切に管理する。 ・メンタルヘルスの保持に努める。	・在校時間等の状況記録の集計結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用や高ストレス者に対する医師の面接指導を通して教職員の適切なメンタルヘルスの保持に努める。 ・安全衛生委員会を中心に健康教室などを実施することなどを通してセルフケアを推進する。 ・教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。 ・開錠施錠時間及び電話対応時間を順守する。
学校関係者評価を実施する おもな評価項目		1　学習指導方法の工夫改善 2　生徒の可能性を引き出した進路目標の設定 3　規範意識及び責任と義務の自覚の醸成 4　ホームルーム活動や特別活動、学校行事等の活性化 5　安全安心な学習環境の整備、学校いじめ防止基本方針に基づく取組 6　業務の改善、財光寺関東の状況記録の集計結果による教職員の健康障害防止	